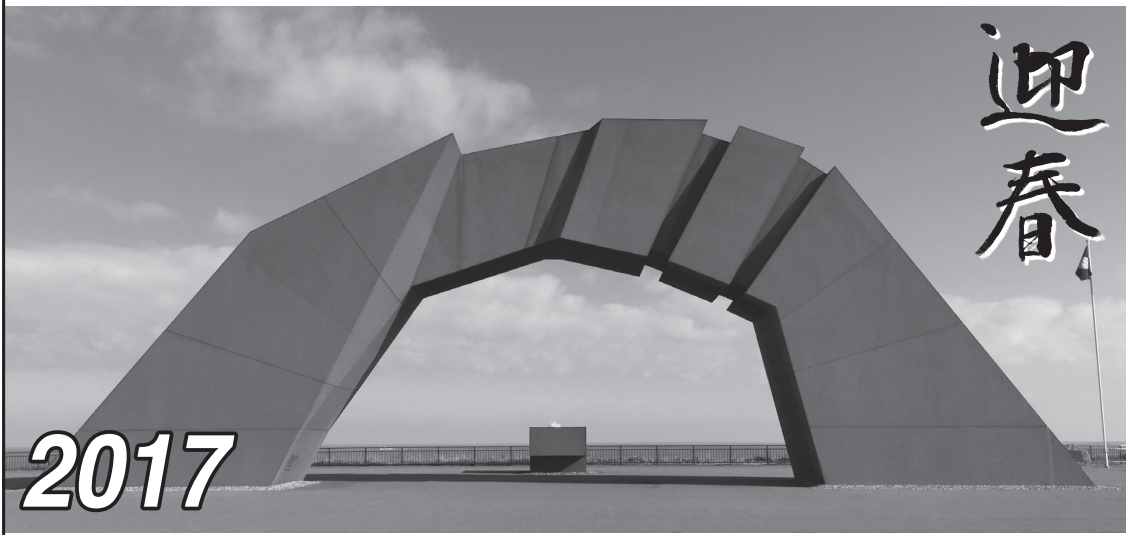


四島のかけ橋

第 60 号
平成29年1月1日

(日曜日)

発行所
北方領土返還要求運動
神奈川県民会議
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL 045-210-1111 内線3618
発行人 綾井 祐一



北方領土返還祈念 シンボル像「四島のかけ橋」

第三十二回県民大会を開催

会場は横浜情報文化センター

平成二十八年十一月二十二日(火)、横浜市中区の「横浜情報文化センター」情文ホールにおいて、第三十二回北方領土返還要求運動神奈川県民大会を開催しました。

会員をはじめ百六十五名 県副知事及び独立行政法人が参加した今大会では、主 北方領土問題対策協会の荒川研理事長(石田精司事務局長代読)から、当県民会

議の活動への敬意と今後の運動への激励のお言葉を頂きました。

記念講演は、防衛研究所の兵頭慎治氏から「プーチン大統領の訪日と北方領土交渉の見通し」というテーマでお話しいただきました。

続いて、大坂誠氏(神奈川県北方領土問題教育者会議・川崎市立野川中学校教諭)が、平成二十八年七月一日から四日に行われた、北方四島交流訪問事業の参加報告を行いました。択捉島を訪問した際の街の様子や在住しているロシア人との交流で感じたことなどについて、映像を交えて報告

しました。

一八五五年の二月七日(旧暦では安政元年十二月二十一日)、伊豆の下田において日露通好条約が調印されました。この条約で日露両国の国境が平和裏に定められ、北方四島が日本の領土として初めて国際的に明確にされたのです。そうした経緯を踏まえて、北方領土問題に対する国民の関心と理解をさらに深め、全国的な北方領土返還運動の一層の推進を図るため、昭和五十六年一月六日の閣議

二月七日(火)は「北方領土の日」

了解で二月七日が「北方領土の日」として定められました。

県民会議では、相鉄線、横浜市営地下鉄グリーンライン及び神奈中バスでの「車内映像広告」のほか、電光ビジョン、新聞、懸垂幕などによる広報を予定しています。

また、本年も二月七日(火)に、東京都の国立劇場で、「北方領土返還要求全国大会」が開催されます。

講演要旨

「プーチン大統領の訪日と

北方領土交渉の見通し」

防衛研究所 地域研究部長 兵頭 慎治 氏

平素より北方領土の返還運動にご尽力を賜り、心より敬意を表します。また、神奈川県民として、県民大会に参加できたことを大変うれしく思います。プーチン大統領の訪日を機に、領土交渉や日露関係がどうなっていくのか、今後の注目点は何かということ、研究者の立場からお話したいと思います。

まず、最近の国際情勢についてです。ご存じのように、トランプ政権が来年一月に発足することが決まりました。トランプ氏はどちらかというとロシアに融和的、ロシアとの関係改善を望んでいると伝えられてい

ます。ロシアとアメリカにはウクライナ問題があり、二〇一四年のクリミア半島の併合を機にその関係が非常に悪化しましたが、トランプ政権が誕生すること、アメリカとロシアの関係はよくなると見られています。日露関係を進めていくことに限って言えば、トランプ大統領の誕生は日本にとって悪くない、むしろアメリカの視線をあまり気にすることなく、ロシアとの関係強化を進めやすい状況が出るだろうと予想されています。

約三週間後に控えたプーチン訪日に至るまで、両首脳は何度も会談を持っています。

まず、つい最近ではベルギーで行われたAPECの時、その前は九月のロシア極東のウラジオストクでの東方経済フォーラム、さらに五月のソチでの会談です。第一次安倍政権を含めて、今度の十二月の首脳会談は十六回目になります。これだけプーチン大統領と会談している外国の首脳はほかにはいません。両首脳の個人的な信頼関係がほぼ固まって、これから本格的な領土交渉に入っていく条件や基盤が整ったということです。

北方領土交渉がどうなるかという話の前に、プーチン大統領のはつらつとした写真をご覧いただきたいと

思います。十月に六十四歳になったプーチン大統領ですが、実はロシアの男性平均寿命に達しつつあります。なぜこうした元気を保てるかというと、指導者としてまだまだやれるということをロシア国民にアピールする必要があるのです。今の大統領任期は二〇一八年五月までですが、二〇一八年の大統領選挙に当選すると、さらに六年間大統領の任期が上乗せになる可能性があります。他方、安倍首相は、総裁任期を延長するという話が出ていて、二〇二一年まで首相を務める可能性が出ています。

領土交渉が始まるにあたって、四島の特徴、面積、価値というのは非常に重要なポイントです。択捉島と国後島はいずれも沖縄本島よりも大きく、択捉島は島取県とほぼ同じ面積です。択捉島の北端と国後島の南端は、東京―大阪間に匹敵するほどの距離です。四島が全て返還された場合には、新しい都道府県が一つ、小さいものであれば二つ加わるぐらいの面積があります。当然、陸地の面積のみならず排他的経済水域その他も戻ってくることになるので、島の価値は非常に大きいものがあります。さらに納沙布岬から歯舞群島の貝殻島は三・七キロです。これは、はつきり肉眼で見えます。北方領土というのは、遠くの小さな島」ではな

く、非常に近くて大きな島の話なのです。

現在ロシア人は、一万七千人ぐらい住んでいます。主に大きい方の島である択捉島、国後島に住んでいて、色丹島は三千人ぐらい、歯舞群島には、おもにロシア国境警備隊と呼ばれる組織の人たちが駐留しています。択捉、国後島には、三千五百人のロシア軍も駐留しています。これを多に見るか少ないと見るかはありますが、この二島に関しては、ロシア側が軍事的な重要性を認めているということです。ちなみに、色丹島と歯舞群島にはロシア軍は駐留していません。

北方領土問題に対する基本的なスタンスですが、日本側は「歴史的にも、法的

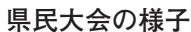
灯台

この機関紙「四島のかけ橋」は今号で六十号になります。創刊号は昭和六十二年七月十五日に発行されて、「北方領土とは：」北方領土運命の二十五日」など北方領土問題の説明がなされています。第二号には十一月二十一日、第三回県民大会が神奈川県立県民ホール六階大会議室にて二百二十名の参加を得て開催され、主催者を代表して相馬元治県民会議会長が「ソ連の北方領土についての態度は依然として厳しい」との認識を示し、一層の団結と協力を力強く訴えた」とあります。続いて、俳優の川津祐介氏の「私と北方領土とのあい」との講演があります。二面の記事には昭和六十二年度の「新規視察研修事業」として「目で見る北方領土の旅」を企画

画し四十四名の参加を得て、十月十五日から十八日の三泊四日の行程で、北海道東部を巡ったと、その行程の詳しい報告が掲載されています。昨年十二月十五日・十六日に日口首脳会議が山口県長門市と東京で開催されました。この会談には大きく、この会談を機に北方領土返還の実現に向けて大きな一歩になるという見解を示しています。かつての北方領土問題での日ロ交渉では、ロシア側から「北方領土問題は存在しない」という主張がありました。が、現在はお互いにとつて利益のある解決にしたいと北方領土問題の存在が確認され、大きく前進しています。戦後七十一年の間不法占拠されている北方四島が、この会談を機に一日も早い平和条約が締結されるよう見つめていきたいと思っています。

(綾井)

岡山県岡山市 杉山菜々子さん



す。オホーツク海や千島列島が北極海航路の通り道。抜け道になりつつあります。千島列島の間地点に松輪島という島がありますが、ロシアはこの島に海軍基地の設置を検討しています。北極海航路は、日本海を抜けて、サハリンと北海道の間、の宗谷海峡を抜けて、オホーツク海に入り、その後千島列島を越えて北上して、ぐるっと北極海をめぐる。

軍事安全保障の問題と考えるとおり、もし北方領土が日本に引き渡される場合、日本に返還した島に自衛隊は駐留するのか、米軍は駐留するのか、安全保障上どういう位置づけになるのかということを気にするでしょう。両首脳の政治的な合意だけでは決められない部分があるのです。

そこで鍵となるのは、オホーツク海と千島列島で

脳による北方領土問題、平和条約締結をめぐる政治交渉がキックオフになります。この問題を解決し平和条約を締結して、日本とロシアの関係を正常化したほうがいいと、両首脳は本気で思っていると私は考えています。ただ、「日ソ共同宣言」で規定された歯舞群島、色丹島を、平和条約締結後日本に引き渡すという問題に限ったとしても、ハードルはまだあります。

兵頭慎治 氏

プロフィール

防衛研究所 地域研究部長
○外務省在ロシア日本大使館、内閣官房などを歴任し防衛研究所へ。
○「多民族連邦国家ロシアの行方」(東洋書店、二〇〇三)、「プーチン政権における国家安全保障概念の改訂をめぐる動き」(論文、二〇〇六)、「北方領土問題を俯瞰して考えるーロシアの領



土観と日露安保協力」論
文、二〇一五）他多数

○上智大学大学院国際関係
論専攻博士前期課程修了

○専門はロシア地域研究
（政治、外交、安全保障）

以外にありません。しかし、我々ができることは、領土問題に対する世論を喚起して政治交渉を後押しすることです。本当に日本国民はこの問題に関心があり、どこまで強く返還を希望しているのか、それを日本通のワイノ氏は見きわめています。ロシアもしたたかな相手ですので、こちらの世論がしっかりしてないと、足

元を見られて不本意な結果になるかもしれません。少しでも日本に有利な解決策を政治の側で交渉してもらうためにも、これからますます日本国内で領土問題に対する世論を盛り上げていく必要があると思います。

◇◇◇◇◇

編集後記

◆昨年十月十七日から十九日にかけて行われた「北

二月の「北方領土返還運動全国強調月間」の期間、相鉄線・横浜市営地下鉄グリーンライン・神奈中バスの一部の車両で、北方領土に関する啓発映像を放映します。

早々「北方領土を実際に見てみたい」と希望された森正明会長に参加いただきました。県民会議初代会長に第七十八代県会議長である石渡清元議長が就任して以来、三十二年経った今年

神奈中バス「かなチャンネル」

一回三十秒のCMが、相鉄線は全線で五十両の車両、横浜市営地下鉄グリーンラインは六十両の車両、神奈中バスは横浜地区、厚木・綾瀬地区、相模原地区、藤沢・茅ヶ崎地区の三百四十台の車両で流れる予定です。ご乗車の際には、車内映像広告にご注目ください。

度、森正明県議会議長に、鼎民會議会長として、お忙しい中初めて北方領土視察研修に参加いただいたことは、さすが元トップアスリートだと敬服しました。この事業を今後とも継続することは難しいですが、会員団体の更なる協力をお願い致します。

（綾井）

編集後記